

平成27年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成27年の梅雨入りは、沖縄地方、東北南部、東北北部でかなり遅く、奄美地方、北陸地方で遅かった。東北南部の梅雨入りは6月26日ごろで、1951年の統計開始以来1967年と並んで最も遅かった。そのほかの地方は、平年並か早かった。

梅雨明けは、沖縄地方、関東甲信地方でかなり早かった。沖縄地方の梅雨明けは6月8日ごろで、1951年の統計開始以来最も早かった。そのほかの地方は、平年並か遅かった。

梅雨の時期の降水量（6～7月。沖縄と奄美は5～6月。）は、九州南部、四国地方、近畿地方、東海地方でかなり多く、奄美地方、関東甲信地方で多かった。一方、東北南部ではかなり少なく、沖縄地方、中国地方、北陸地方、東北北部では少なかった。九州北部地方は平年並だった。（別紙表参照）

主な特徴は以下のとおり。

- ・沖縄地方は、5月上旬から中旬にかけて、天気は数日の周期で変わり、移動性高気圧に覆われる日が多かったため、梅雨入りはかなり遅かった。また、6月中旬以降は、太平洋高気圧に覆われたため、梅雨明けはかなり早かった。
- ・梅雨前線は、6月中旬から下旬にかけては、九州南部から本州の南海上に停滞し、東北地方は高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、東北地方の梅雨入りはかなり遅かった。一方、九州南部では6月の降水量が平年比227%と1946年の統計開始以来最も多かった。
- ・関東甲信地方は、7月中旬以降太平洋高気圧に覆われ晴れの日が続いたため、梅雨明けは平年よりかなり早かった。一方、西日本では、7月中旬以降も台風や湿った気流の影響を受け、曇りや雨の日が多かったため、九州南部を除き梅雨明けが平年より遅かった。

※気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っている。

本件に関する問い合わせ先：

地球環境・海洋部気候情報課 03-3212-8341（内線3154）
予報部予報課 03-3212-8341（内線3127）

表 各地方の梅雨入り・明けと梅雨期間降水量

地方名	梅雨入り(注1)	平 年	梅雨明け(注1)	平 年	梅雨時期 の降水量 平年比と 階級(注2)
沖 縄	5月20日ごろ(+)*	5月 9日ごろ	6月8日ごろ(-)*	6月23日ごろ	73%(-)
奄 美	5月19日ごろ(+)	5月11日ごろ	7月6日ごろ(+)	6月29日ごろ	141%(+)
九州南部	6月2日ごろ(0)	5月31日ごろ	7月14日ごろ(0)	7月14日ごろ	209%(+)*
九州北部	6月2日ごろ(-)	6月 5日ごろ	7月29日ごろ(+)	7月19日ごろ	102%(0)
四 国	6月2日ごろ(0)	6月 5日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月18日ごろ	142%(+)*
中 国	6月2日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	78%(-)
近 畿	6月3日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	144%(+)*
東 海	6月3日ごろ(-)	6月 8日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	135%(+)*
関東甲信	6月3日ごろ(-)	6月 8日ごろ	7月10日ごろ(-)*	7月21日ごろ	128%(+)
北 陸	6月19日ごろ(+)	6月12日ごろ	7月25日ごろ(0)	7月24日ごろ	68%(-)
東北南部	6月26日ごろ(+)*	6月12日ごろ	7月26日ごろ(0)	7月25日ごろ	66%(-)*
東北北部	6月26日ごろ(+)*	6月14日ごろ	7月29日ごろ(0)	7月28日ごろ	87%(-)

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)*：かなり遅い、(+):遅い、(0):平年並、(-):早い、(-)*:かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 全国153の气象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*:かなり多い、(+):多い、(0):平年並、(-):少ない、(-)*:かなり少ない、の階級区分を表す。

(注3) 階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%	33%	33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い かなり遅い	平年並	早い かなり早い
降水量	少ない かなり少ない	平年並	多い かなり多い